

2017年8月に導入した骨密度検査機器で生活習慣や加齢による筋肉の衰え(サルコペニア)を検査できるようになった。2019年度も筋肉量を測定できる体組成検査を継続して行った。

整形外科で提唱している運動器の障害のため移動機能の低下を来した状態「ロコモティブシンドローム(略してロコモ)」の原因には、運動習慣がない・痩せすぎ・肥満などの生活習慣、加齢による筋肉の衰え(サルコペニア)、膝や股関節、背骨の変形・骨折がある。

特に重要な疾患は骨粗鬆症とそれに関連する脊椎・大腿骨近位部骨折、変形性関節症であるため、精度の高い骨密度測定器で、骨粗鬆症患者の病態や薬物治療効果を判定し、診療に役立てている。また、その結果を日本骨粗鬆症学会の認定医として、学会で発表・報告を行っている。

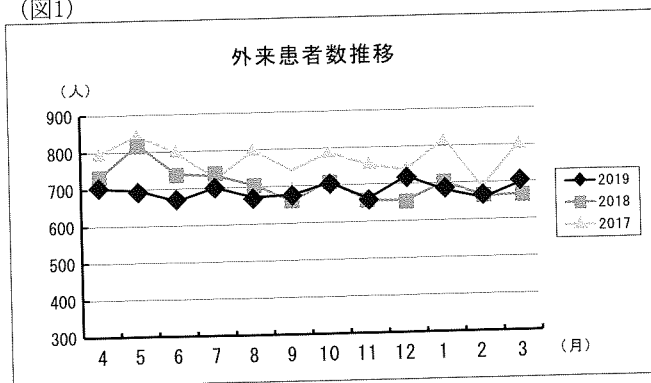
変形性膝関節症に対しては、生活指導・薬物治療・関節注射を行い、必要に応じて手術(人工関節置換術)を行っている。

近年慢性疼痛や神経障害性疼痛患者も増加し、薬物治療の選択肢も増えてきた。画像診断(MRI)や血液検査を行い、患者の病態把握や、炎症や腎機能の評価を行い、普通のNSAID以外に、プレガバリン、オピオイド、トラマドール、デュロキセチン、漢方薬などの薬物治療や注射等を行い治療に取り組んでいる。

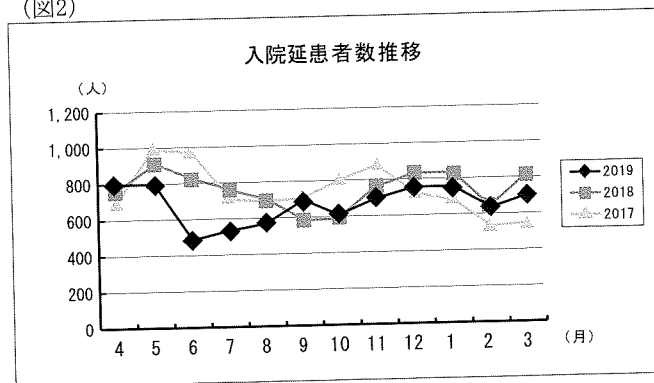
2019年度も整形外科は常勤医師1名で診療を行った。当科では週3回の外来を行っており、外来の延患者数は8,228名(図1)、入院延患者数は8,036名であった。(図2)入院患者の主な疾患は大腿骨骨折・胸腰椎圧迫骨折が例年同様多数を占めており、前年度とほぼ変わらない状況であった。

次年度も地域唯一の整形外科として、充実した医療を提供できるよう引き続き取り組んでいく。

(図1)



(図2)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
観血的骨接合術	2	2	1	3	2	1	4	7	3	1	1	5	32
四肢切断術										1	1		2
人工膝関節置換術(TKA)				1	1	1							3
抜釘術		2	1			2		1	1	1			8
人工骨頭置換術										1	1		2
腱鞘切開術			1										1
手根開放術					1								1
異物摘出術													0
腱縫合術													0
軟部腫瘍摘出術											1		1
徒手整復			1	1									2
その他				1			1			1	1		4
合計	2	5	5	4	4	5	4	8	5	6	3	5	56

